

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

石 田 宏 代

今 井 智 子

宇 野 彰 準

勝 木 準 美

熊 倉 勇 子

倉 内 紀 子

小 林 範 子

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

深 浦 順 一

矢 守 麻 奈

いよいよ年の瀬が迫り、心忙しい日々が続く候となっております。今号は原著論文3編、短報1編、調査報告1編、レポート1編をお届けします。菅野論文の「失語症の文発話における動詞提示の効果—非流暢性失語例と流暢性失語例の比較」は、動詞の項構造の処理という観点から構文障害の発生メカニズムを検討しており、構文障害に対する新しい切り口を提示しています。現在、構文障害の研究は症状記述や病巣との対応を超えて発生メカニズムの解明に広い視点から取り組んでいます。特に意味の構造化、および意味と言語形式のマッピングの過程に研究の焦点が当てられており、文産生における動詞の処理の検討は重要な研究テーマとなっています。研究のさらなる発展が期待されます。宮本論文の「復唱において意味性錯語と非語の語彙化現象を呈した症例—深層失語との比較」は、非語の語彙化現象から症例の障害構造を検索しており、その成果は評価・訓練の指針へと繋がるものと思います。古川論文の「失語症者からの話の聴き取り方—失語症の臨床経験年数による差異」は、失語症患者の意思伝達効率に聞き手の会話スキルがいかに深く関係するかを明らかにしています。中村論文の「失語症配偶者の精神的健康とその関連要因」は、言語聴覚療法における重要な資料を提供しています。

本誌の歴史は浅く、まだようやく3年を過ぎたところですが、皆様のご協力で着実に歩みを進めています。来年も多くの方々が研究に取り組み、その発表の場として本誌を利用されることを望みます。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第4巻 第3号)2007年11月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-5-16 霞ビル 801

(☎03-6412-9853 FAX 03-6412-9854) <http://www.jaslht.gr.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Kasumi-Build. #801, 2-5-16 Shinjuku Shinjuku-ku, Tokyo, 160-0022, Japan

©2007, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎03-3814-1971(FAX 03-3814-8915)